

第21回「緑の少年団全国大会」 ぼくたちが 未来へつなぐ 青い森



緑の少年団の活動発表

全国の「緑の少年団」が一堂に会し、自然体験を通して交流し合う「第21回緑の少年団全国大会」が、7月28日から30日までの3日間にわたって、青森県で開催されました。



緑の少年団全国大会初日の記念式典が、青森市の青森公立大学で開催されました。緑の少年団の入場行進で始まった式典は、主催者の三村申吾青森県知事が「青森県の農林水産物を育てているのは山の恵みです」と森林の重要性について語り、参加した緑の少年団に対し期待の言葉を添えあいさつしました。続いて津元頼光森林整備部長が、緑の少年団の活動に対する励ましの言葉を贈りました。

式典終了後、緑の少年団全員で三内丸山へ移動し、縄文遺跡群の見学を行いました。森林の恵みに育まれ、人々が自然と調和して暮らしていた縄文時代の文化に触れる、青森県ならではの体験となりました。

各班ごとに自然体験活動

大会2日目は、津軽地区と南部地区それぞれ5班ずつ計10班に分かれての自然体験活動が行われました。

世界遺産白神山や津軽富士と呼ばれる岩木山のある津軽地区では、「山と川のつながり」人と世界遺産との関わり、「伝統文化と人山の関わり」をテーマとした体験活動がそれぞれ行われました。藩政時代に



自然体験活動(津軽地区)





自然体験活動(南部地区)

田の水を確保するために設置された禁伐林「ニニ白神」について学び、白神山地の暗門の滝やブナ林の中を散策しピクニックセンターを見学したり、岩木山に登り「ねぶた村」を見学するなど、先人たちが営んできた人間と自然のつながりについて、楽しみながら理解を深めました。

青森県で最大の湖である小川原湖や奥入瀬渓流のある南部地区では、「湖と人とのつながり」清流と人との関わり」をそれぞれテーマとした体験活動が行われました。小川原湖でのカヌー体験、野鳥観察、シジミ採り体験や、

奥入瀬渓流の自然観察などを通じて、豊かな水資源と人々の営みに触れ、森林と水資源を守ることの意義について、互いに交流し合いながら学習しました。

最終日には、青森公立大学で交流活動発表会が開かれ、各班からそれぞれの自然体験活動について発表が行われました。

また、閉会式では、青森県から次期開催県である山梨県に、連盟旗の引き継ぎが行われ、山梨県の緑の少年団から「第22回の緑の少年団全国大会でも、今回の青森県で行われた全国大会のように、全国の仲間とふれあえる素晴らしい大会にしますので、是非、来年は山梨県で会いましょう」とあいさつが行われました。

閉会式終了後にはアトラクションが行われ、青森県の緑の少年団員がねぶた祭りの「跳入」に扮し、参加者に鈴を配り、アトラクションを盛り上げ、第21回の緑の少年団全国大会の全日程が無事終了しました。



閉会式

平成22年度みどりの奨励賞

式典では、平成22年度みどりの奨励賞受賞者の表彰が行われました。受賞した少年団と主な活動内容は以下のとおりです。



みどりの奨励賞受賞者の表彰

- | | |
|-----------------|--------------------------------|
| 青森県ヒノキアスナロ緑の少年団 | ●遊々の森・ライオンズの森の植樹および枝打ち等の手入れ |
| 栃木県坂上小学校緑の少年団 | ●学校周辺の鳥獣保護区をフィールドとした自然体験活動 |
| 愛知県築羽みどりの少年団 | ●学校林に生徒1人ひとりが自分の名前のついた木を持ち継続観察 |
| 京都府峰山・長岡みどりの少年団 | ●地域の公共施設に「みどりのカーテン」を育成 |
| 徳島県穴喰小学校緑の少年団 | ●ドングリから苗木を育て地元林業グループと共に植樹 |